# TEAM TARO

SANMEI TEAM TARO PLUSONE with SDG

TARO SEKIGUCHI 2026

# RACE REPORT




2026 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 7

## 2026 58th MFJ GRAND PRIX
## SUPERBIKE RACE in SUZUKA



- 三重県
- 鈴鹿サーキット
- 1周=5.821km

- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

**JSB1000 44 関口 太郎**

**RACE 1**

10月24日(土) 天候：雨　コース：ウエット

予選　16 番手（タイム：2 分 21秒 864）

決勝　16 位

**RACE 2**

10月25日(日) 天候：雨　コース：ウエット

予選　17 番手（タイム：2 分 22秒 344）

決勝　16 位

**シリーズランキング：12 位**

BMW　M　alpha RACING　三明電気工事　SDG　KAWAFUL TECHNO

KRAFTIA　藤本電機工業　Motorcycle CS2　OKA　旅籠屋　太邦工業　Burgundy　Euro 25　府中不動産　バイク館　ARAI　A-big Motorrad　Moto Shop Kouwa　MSK

HYOD　Arai HELMET　BRIDGESTONE　ADVANTAGE　Team PLUS ONE　リンテックサインシステム株式会社　PLUS μ Brake Factory　WIND JAMMERS　SUPER NOW　NOMAD SAFETY & GOGGLE　elf　RK TAKASAGO CHAIN　NGK SPARK PLUGS　Moto United　DELTAN　株式会社 あじ亭　功和軍団　Hippo

FIXFIT　SHORAI　Alpinestars　Body Crystal　MDF　TCM　RACING MAX　R.C.S.　999.9　Pro　TRIP　BEEPRESSO　TK LABO　fine dental art　DESIGN TOOL INC.　H-DESIGN　常道屋　TARO　Dr.Kanto

# 2026年もプライベーター最上位でシーズンを終える

4月にモビリティリゾートもてぎで開幕した2026年シーズンの全日本ロードレース選手権も鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた。最高のレースをしてシーズンを締めくくるべく、今年も最終戦鈴鹿には、Type3エンジンを投入し、エンジニアにアルファレーシングのジュリアン・ベニッツを召喚。木曜日に特別スポーツ走行からレースウイークのセッションがスタートした。



走り始めは赤旗中断も多く、思うように周回できず、エンジン特性の違いもあり、フィーリングは今ひとつ。足回りは、鈴鹿8耐のときの方向ではなく、去年の鈴鹿のレースに近い方向で行くことを決めていた。2本目で電気系のセットを進めたが、速いエンジンを生かし切れていない状態だった。



金曜日の1本目は気温が下がり、前日まで進めていたセットがコンディションに合わない部分が出てしまいアジャストしていく。2本目になり、ようやくフィーリングがよくなってきた。土日は雨予報だったため、ニュータイヤでアタックしてみたい思いもあったが、1セッション30分と時間は限られており、ロングランを行い、その中で2分06秒957をマークできていた。この流れで予選がドライであれば自己ベスト更新も狙える手応えがあったのだが…。





土曜日は天気予報通り雨となり、路面はウエットコンディションに。雨を見据えたマシンセットでコースインすると、走り始めからフィーリングがよく攻めていける状態だった。接地感もあり、周回ごとにタイムを縮めていく。しかし計測6周目の130Rで進入ハイサイドで転倒を喫してしまう。高速コーナーだったが、優れたライディングギアのおかげで大きなケガもなくピットに戻ることができた。計測は5周しかできていない中でレース1は16番手、レース2は17番手グリッドにつけた。



14周で争われたレース1。予選の転倒で全身を打撲し、手も痛めていたこともあり、慎重にスタートを切る。4周目に3つポジションを上げ14番手となったが、レース中盤にポジションを落とし17番手を走行。レース終盤に1台をかわし、さらに前方のライダーを追ったものの届かずチェッカーを受けた。

日曜日に行われたレース2もウエットコンディションとなり、予定より4周短い12周で行われた。レース1から足回りやトラクションコントロールのセットを変更し、レース2に挑んだ。フィーリングはよくなったが、コンディションは厳しく単独走行となる。それでもプライベーター最上位でゴール。シリーズランキングでも12位と今年もプライベーター最上位の結果を残した。

まずは今シーズンも無事に戦い終えたことを応援してくださったスポンサーの皆さま、ファンの皆さま、そしてチームスタッフに感謝いたします。今年は、マシンも新型になり、シーズン序盤は調子よく走れていましたが、鈴鹿8耐以降、雨が多くフラストレーションがたまるレースが続きました。後半戦は特に周りのレベルが上がってきていましたし、Team TAROとしても、もう一段上のレベルに引き上げたかったですね。今年もプライベータートップという成績を残せましたが、最終戦鈴鹿で感じたのは、もっと自分自身に厳しく、レーシングライダーとしてのレベルを上げていかないといけないということです。日々精進して、来シーズンに向けて準備を進めます。引き続き応援よろしくお願い申し上げます。

関口 太郎



このリリースへのお問い合わせは右記メールアドレスまでお願いいたします。E-mail：tarosekiguchi@gmail.com